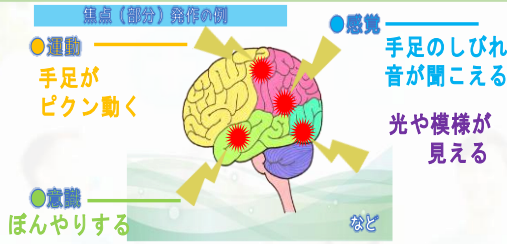




(株)スタンダード運輸

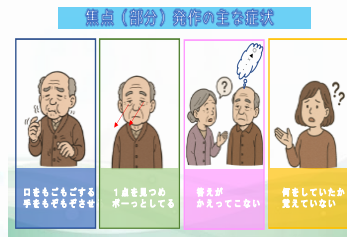
(株)茨運 スズ工電機(株)

成人のてんかんの症状



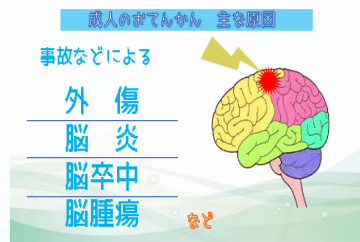
発作は、脳のどこで発作が起きたかによって、症状が変わってきます。脳の意識をつかさどる領域に病気があると、ぼんやりするという症状が起こります。脳の運動をつかさどる部分で発作が起これば、手足などの体の一部分がピクンと動いたりします。この場合、患者さんは意識がある場合がほとんどです。脳の感覚をつかさどる部分で発作が起これば、手足がしびれたり、何か聞こえたり、見えたりすることもあります。このように、てんかん発作の症状は様々ですが、一人の人に色々な症状の発作が起こるわけではなく、いつも同じ症状が起こるとされています。

高齢者のてんかんの症状



てんかんの発作というと「全身けいれん」を思い浮かべる方が多いですが、全身けいれんは、発作のタイプでは「全般発作」と呼ばれるものの一つであり、高齢者の患者さんでは、少ないタイプなのです。高齢者の場合、「焦点発作」(部分発作)といわれるものがてんかん発作の多くを占めます。これは、脳のひとつの領域だけの過剰な興奮によって起こるもので、意識がある場合とない場合があります。焦点発作は、脳の中で過剰な興奮が起こった領域によって特有の症状が出ます。

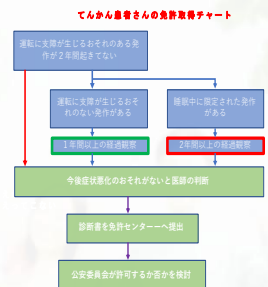
成人のてんかんの原因



てんかんの原因は、脳に病気が起これたり、傷がついたりして、脳の複雑なネットワークに何らかの障害が起こることが原因です。成人の場合、多いのが交通事故などによる「外傷」です。脳が部分的に傷つき、一部がうまく働かなくなり、発作が起こります。他の原因としては、いろいろな病気などによって脳に炎症が起これる「脳炎」。また中高年の人では「脳卒中」も原因になります。他にも「脳腫瘍」によって発作が起これることもあります。

てんかん患者さんの運転免許

てんかんの患者さんが運転免許を取得するには、一定の条件があります。まずは道路交通法によって「運転に支障が出るおそれのある発作が2年以上起きていない」ことが条件です。※右記チャート参照ください。運転に使用がでないような小さな発作や睡眠時だけ発作が起きるときはどう考えるのでしょうか。この時の条件を満たせば運転は可能な場合もあります。チャートのように、運転に支障がないような小さな発作の場合は原則1年以上の経過観察で免許取得の許可が下りることになります。しかし、1.00%使用が無いとはいえずとも限りません。患者さんが自分自身の発作を正しく理解しているかどうかの問題、それと医師に正しく申告しているかどうかの問題、発作ビデオなどで本当に運転に支障がないかどうかの確認など、いくつもの問題が隠れています。このため、公安委員会に提出する死んだ所の作成に關しては、規定以上に慎重になる医師がいることも理解して下さい。

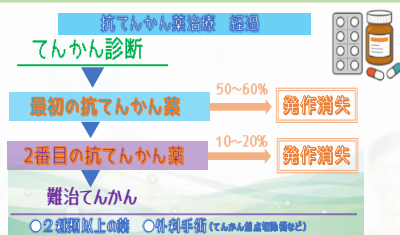


てんかんの検査



てんかんを診断する際は、いくつかの検査が行われます。まず、時間をかけ「問診」が行われます。「脳波検査」では、脳の過剰な興奮が脳のどこで起これているのか調べます。また、MRIなどの「画像検査」は、脳の傷や障害を画像で確認できるため、転倒の診断に有効です。検査には「ビデオ脳波同時記録」という、より専門的な検査があります。4日くらい入院してもらい、脳波をとる装置を頭につけて、定点カメラで撮影しながら、発作の時の様子などを調べます。

成人のてんかんの治療法



成人のてんかんの場合、主な治療法は、発作を防ぐ「抗てんかん薬」と「手術」となります。最初の薬で、50~60%の人は、発作のない状態になります。それが効かず、2番目の抗てんかん薬にした場合、さらに10~20%の人は、発作がなくなります。それでも発作が治まらない場合は「難治てんかん」といいます。その場合、2種類以上の薬の服用か、脳の外科手術を検討します。「抗てんかん薬」は、脳の神経細胞で起こる過剰な電気的興奮を抑えるため発作を防ぐ働きがあります。治療のガイドラインというものが有り、医師は、発作のタイプ、年齢、性別などから薬を選択します。